

第64回男子・第37回女子
全日本学生ホッケー選手権大会

最終日

開催日時 11月3日(火) 会場 立命館ホリーズスタジアム 天候 晴れ

【最終順位】

男子		女子	
山梨学院大学 (4年ぶり3度目)	優勝	立命館大学 (10年ぶり続3度目)	
明治大学	2位	山梨学院大学	
天理大学	3位	東海学院大学	
立命館大学	4位	天理大学	

【最優秀選手】

男子	女子
山崎晃嗣 (山梨学院大学)	一谷奈歩 (立命館大学)

【各試合の結果・詳細】

9:30～ <女子3位決定戦>

立命館ホリーズスタジアム

天理大学 0 $\begin{pmatrix} 0 & - & 1 \\ 0 & - & 3 \end{pmatrix}$ 4 東海学院大学

7	PC	4
13	シュート数	14

得点	東海学院→3分清水、42分清水、67分的場、68分森下		
戦評	東海のセンターパスにより試合が開始された。開始早々の3分、東海#9清水が天理DFのスキを突き、ブッシュシュートを決め、先制。その後、激しいボールの奪い合いが続き、一進一退の攻防の展開となる。同点に追いつきたい天理は2回PCを獲得するも、得点に結びつけることができない。両者ともにゴール付近までボールを運ぶが、決め手を欠き、得点につなげることができないまま前半は終了する。後半も、前半同様に両者一歩も譲らず激しい攻防が続くが、41分東海はPCを獲得し、またも#9清水がブッシュシュートをゴールに。それに対して天理がチャレンジを行使するも認められず得点となり、2-0となる。44分、天理がPCを獲得したかと思われたが、次は東海がチャレンジを行使し認められたためLCとなる。その後、天理・東海ともにPCでチャンスは訪れるものの、得点にはつながらない。しかし67分、ついに東海がPCで#2的場がフリックシュートを決め、3-0と天理を突き放す。また、68分には#鳥山がブッシュシュートを決めダメ押しの4点目を得る。このまま試合は終了し、4-0で東海の勝利となった。		
テクニカルオフィサー	長田和雄	アンパイア	押田幸二
ジャッジ	中坪真希・中野典子		Sunny Wang

11:00~ <男子3位決定戦>

立命館ホリーズスタジアム

立命館大学 2 $\begin{pmatrix} 2 & - & 0 \\ 0 & - & 3 \end{pmatrix}$ 3 天理大学

2	PC	4
12	シュート数	6

得点	立命館→9分三浦、34分大橋		
	天理→46分黒川、57分黒川、65分橋本		
戦評	<p>立命のセンターパスにより試合が開始された。9分、立命#9三浦のタッチシュートにより先制点をあげる。反撃したい天理は22分にPCを獲得するも得点に結びつけることができない。23分には立命がPCを獲得するが、こちらも得点とはならない。互いに一進一退の攻防が繰り広げられる中で、天理がシュートを決めたと思われたが、これは立命のチャレンジにより得点とはならない。前半終了間際に立命はPCを獲得し、#1大橋が2点目を決め、2-0で折り返す。</p> <p>後半に入り、序盤から攻める立命であるが中々得点につなげることができない。そんな中で45分、天理がPCを獲得し#8黒川が強烈なフリックシュートを決め、1点差とする。これで、天理のペースをつかむと、56分、天理がPCを獲得、またも#8黒川が2度目の得点を決め、同点に追いつく。その後も天理の猛攻は続き64分、またしてもPCを獲得。#8黒川のシュートが立命DFの足に当たるが、つかさず、#17福田が奪い取りセンタリング、それを#13橋本が落ち着いて決め、逆転とする。追いつがる立命を振り切り、逆転の3-2で天理が勝利し、3位となった。</p>		
テクニカルオフィサー	荻谷和代	アンパイア	木下英貴
ジャッジ	板橋秋穂・中坪真希		石橋徹也

12:30~ <女子決勝>

立命館ホリーズスタジアム

山梨学院大学 1 $\begin{pmatrix} 1 & - & 0 \\ 0 & - & 1 \end{pmatrix}$ 1 立命館大学

4 SO 5

7	PC	4
11	シュート数	11

得点	山梨学院→32分藤井		
	立命館→68分山下		
戦評	<p>山梨のセンターパスにより試合が開始された。両チーム立ち上がりから激しい攻防が続く中、積極的にシュートを放つ展開。互いにチャンスを作るが、両チームとも決め手に欠き膠着状態が続く中、16分立命がPCを獲得するも得点に結びつけることができない。山梨は22分、24分にPCを獲得するがこちらも得点とはならない。攻め続ける山梨は、32分PCを取得。このチャンスに#20藤井がフリックシュートを決め先制する。1-0のまま前半を折り返す。</p> <p>後半も両チーム一進一退の攻防を繰り広げる。猛追する立命は65分に#17一谷がシュートを放つも、枠をとらえきれない。粘る立命は、67分にPCを獲得。#2山下がヒットシュートで値千金の同点ゴールを決める。その後、ゲームは膠着し、このまま後半戦が終了、1-1でSO戦へとつれ込む。</p> <p>SO戦は、両チームとも3名が決めゴールデンゴール方式へと、10人目、立命が決め山梨が外し、立命が見事、逆転勝利で、10年ぶり3度目の優勝を決めた。</p>		
テクニカルオフィサー	中野典子	アンパイア	藤原真由美
ジャッジ	塩井拓真・長田和雄		野澤達

14:00～ <男子決勝>

立命館ホリーズスタジアム

山梨学院大学 4 $\begin{pmatrix} 2 & - & 1 \\ 2 & - & 0 \end{pmatrix}$ 1 明治大学

4	PC	2
10	シュート数	4

得点	山梨学院→12分山崎、26分蛭田、38分松、48分蛭田		
	明治→2分佐々木		
戦評	<p>明治のセンターパスにより試合が開始された。2分、明治#7佐々木がシュートを決め先制点を挙げる。このまま、明治ペースで進むかと思われたが、12分、山梨#6山崎がサークル内のこぼれ球をダイレクトシュートで決め1-1の同点とする。これで流れをつかんだ、山梨は進み26分、山梨がPCを獲得し#10蛭田が右上にフリックシュートを決め2-1と勝ち越し、前半戦を折り返す。</p> <p>後半開始 早々、山梨がPCを獲得。明治GK國友のリバウンドボールを#17松がダイレクトで決め3-1と点差を広げる。必死の反撃を試みる明治は、45分、PCを獲得。#10谷光がフリックシュートを放つもゴールマウスをとらえきれない。すると48分、山梨がPCを獲得。#10蛭田がゴール左下にフリックシュートを決めダメ押し、4-1とする。そのまま、山梨が3点差を守り切り4-1で勝利し、4年ぶり3度目の優勝を決めた。</p>		
テクニカルオフィサー	荻谷和代	アンパイア	成田健一
ジャッジ	塩井拓真・板橋秋穂		渡邊道彦